

Table 6 CAARS 観察者評価式用紙の内的信頼性係数 (α 係数) (年齢層別・性別)

	男性	女性
18～29歳		
不注意／記憶の問題	.88	.85
多動性／落ち着きのなさ	.83	.66
衝動性／情緒不安定	.86	.91
自己概念の問題	.92	.86
ADHD 指標	.86	.85
DSM-IV 不注意型症状	.84	.75
DSM-IV 多動性-衝動性型症状	.71	.72
DSM-IV 総合 ADHD 症状	.87	.84
30～39歳		
不注意／記憶の問題	.86	.91
多動性／落ち着きのなさ	.84	.82
衝動性／情緒不安定	.85	.92
自己概念の問題	.80	.89
ADHD 指標	.76	.83
DSM-IV 不注意型症状	.76	.84
DSM-IV 多動性-衝動性型症状	.60	.77
DSM-IV 総合 ADHD 症状	.81	.89
40～49歳		
不注意／記憶の問題	.86	.87
多動性／落ち着きのなさ	.83	.80
衝動性／情緒不安定	.94	.87
自己概念の問題	.86	.87
ADHD 指標	.84	.82
DSM-IV 不注意型症状	.81	.83
DSM-IV 多動性-衝動性型症状	.84	.73
DSM-IV 総合 ADHD 症状	.89	.87
50歳以上		
不注意／記憶の問題	.86	.89
多動性／落ち着きのなさ	.78	.83
衝動性／情緒不安定	.91	.89
自己概念の問題	.90	.88
ADHD 指標	.85	.82
DSM-IV 不注意型症状	.82	.91
DSM-IV 多動性-衝動性型症状	.68	.78
DSM-IV 総合 ADHD 症状	.84	.92
全サンプル		
不注意／記憶の問題	.87	.88
多動性／落ち着きのなさ	.82	.79
衝動性／情緒不安定	.90	.90
自己概念の問題	.89	.87
ADHD 指標	.83	.83
DSM-IV 不注意型症状	.81	.84
DSM-IV 多動性-衝動性型症状	.73	.76
DSM-IV 総合 ADHD 症状	.86	.88

Table 7 CAARS 自己記入式用紙および観察者評価式用紙の再テスト法による信頼性係数（1カ月間隔）

	自己	観察者
不注意／記憶の問題	.87	.63
多動性／落ち着きのなさ	.79	.67
衝動性／情緒不安定	.87	.77
自己概念の問題	.81	.66
ADHD 指標	.76	.69
DSM-IV 不注意型症状	.82	.64
DSM-IV 多動性-衝動性型症状	.76	.69
DSM-IV 総合 ADHD 症状	.82	.72

性別の分布については Table 1 を参照)。平均年齢は男性が38.37歳 ($SD=13.63$)、女性が35.80歳 ($SD=14.27$) である。

観察者評価式用紙の標準化サンプルは、年齢18～80歳の成人515名（男性244名、女性271名）から構成されている（年齢層別、性別の分布については Table 2 を参照）。平均年齢は男性が38.38歳 ($SD=13.65$)、女性が35.92歳 ($SD=14.28$) である。

信頼性

CAARS 日本語版では、内的整合性による信頼性、再テスト法による信頼性という2種類の信頼性データを検討した。

内的整合性による信頼性

Table 5, 6 に、CAARS 日本語版の自己記入式用紙および観察者評価式用紙の各尺度（矛盾指標を除く）の内的信頼性係数（クロンバックの α 係数）を示す。矛盾指標については、その算出方法（抜粋された2つ1組の項目間の絶対差の総和）が理由で、内的信頼性係数を求めることはできない。

自己記入式用紙と観察者評価式用紙の両尺度とも、どの年齢層・性別のグループにおいても満足いく係数が得られた。したがって、内的整合性という面での信頼性を備えていると判断できる。

再テスト法による信頼性

標準化サンプルとなった対象者の一部に協力いただいで2回の調査を行い、1回目と2回目の調査結果から再テスト法による信頼性を検討した。自己記入式用紙については80名（男性39名、女性41名）の回答者に協力してもらい、約1カ月の間隔を置いて2度記入してもらった。観察者評価式用紙については80名（男性38名、女性42名）の回答者に協力してもらい、約1カ月の間隔を置いて2度記入してもらった。Table 7 に、CAARS 日本語版自己記入式用紙および CAARS 日本語版観察者評価式用紙の再テスト法による信頼性相関係数を示す。観察者評価式用紙においては下位尺度によってはやや低い値がみられたが、全体としては概ね満足いく値が得られた。観察者評価式用紙については、原版が約2週間隔で2回の調査を実施しているのに対して、本調査では自己記入式用紙と同様に約1カ月間隔をおいたために、やや低い値になったものと考えられる。

内的信頼性係数（ α 係数）による信頼性および再テスト法による信頼性の検討を行った結果、CAARS 日本語版の自己記入式用紙と観察者評価式用紙の両方の尺度は、成人期 ADHD の各構成概念をある程度満足できる信頼性をもって測定できることが明らかになった。

年齢と性別の影響

CAARS 評価尺度に年齢と性別が及ぼしうる影響について CAARS 原版と同様に検討を行った。

すなわち、性別と年齢層（18～29歳，30～39歳，40～49歳，50歳以上）を独立変数，CAARS 評価尺度（自己記入式および観察者評価式）の各下位尺度を従属変数とした 2 要因分散分析（ANOVA）を行った（88ページ，Table 8, 9）。性別と年齢層の交互作用および年齢層において有意差がみられた場合，多重比較（Bonferroni 法）を行った。なお，欠損値がみられたため，下位尺度ごとに分析対象者の度数が異なっている。

自己記入式用紙

不注意／記憶の問題

性別と年齢層の交互作用は有意ではなかった [$F(3, 504) = 1.13, p = 0.338$]。性別の主効果は有意ではなく [$F(1, 504) = 0.15, p = 0.698$]，年齢層において主効果がみられた [$F(3, 504) = 13.52, p < 0.001$]。年齢層において多重比較を行った結果，18～29歳の得点が40～49歳と50歳以上よりも有意に高く，30～39歳は50歳以上よりも有意に得点が高かった。

多動性／落ち着きのなさ

性別と年齢層の交互作用は有意ではなかった [$F(3, 495) = 0.46, p = 0.711$]。性別の主効果は有意であり [$F(1, 495) = 22.67, p < 0.001$]，男性の方が女性よりも高かった。年齢層においても主効果がみられた [$F(3, 495) = 2.98, p < 0.05$]。しかし多重比較による有意差は認められなかった。

衝動性／情緒不安定

性別と年齢層の交互作用は有意ではなかった [$F(3, 498) = 1.13, p = 0.336$]。性別の主効果は有意ではなく [$F(1, 498) = 0.05, p = 0.698$]，年齢層において主効果がみられた [$F(3, 498) = 4.86, p < 0.01$]。年齢層において多重比較を行った結果，18～29歳の得点が40～49歳と50歳以上よりも有意に高かった。

自己概念の問題

性別と年齢層の交互作用は有意ではなかった [$F(3, 505) = 0.32, p = 0.810$]。性別の主効果が有意であり [$F(1, 505) = 6.12, p < 0.05$]，女性

Table 8 CAARS 自己記入式用紙の性別×年齢層の分散分析結果

	性別×年齢層 $F(df=3)$	性別 $F(df=1)$	年齢層 $F(df=3)$
不注意／記憶の問題 ($df=504$)	1.13	0.15	13.52*** 18～29歳>40～49歳，50歳以上 30～39歳>50歳以上
多動性／落ち着きのなさ ($df=495$)	0.46	22.67*** 男性>女性	2.98*
衝動性／情緒不安定 ($df=498$)	1.13	0.05	4.86** 18～29歳>40～49歳，50歳以上
自己概念の問題 ($df=505$)	0.32	6.12* 女性>男性	14.49*** 18～29歳>30～39歳，40～49歳，50歳以上
ADHD 指標 ($df=503$)	0.38	0.11	7.78*** 18～29歳>40～49歳，50歳以上
DSM-IV 不注意型症状 ($df=503$)	0.91	0.15	6.42*** 18～29歳>40～49歳，50歳以上
DSM-IV 多動性-衝動性型症状 ($df=498$)	0.80	9.21** 男性>女性	2.20
DSM-IV 総合 ADHD 症状 ($df=495$)	0.95	2.76	5.18** 18～29歳>40～49歳，50歳以上

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

の方が男性よりも得点が高かった。年齢層においても主効果がみられた [$F(3, 505) = 14.49, p < 0.001$]。年齢層において多重比較を行った結果、18～29歳の得点が30～39歳、40～49歳および50歳以上よりも有意に高かった。

ADHD 指標

性別と年齢層の交互作用は有意ではなかった [$F(3, 503) = 0.38, p = 0.767$]。性別の主効果は有意でなく [$F(1, 503) = 0.11, p = 0.735$]、年齢層においては主効果がみられた [$F(3, 503) = 7.78, p < 0.001$]。年齢層において多重比較を行った結果、18～29歳の得点が40～49歳および50歳以上よりも有意に高かった。

DSM-IV 不注意型症状

性別と年齢層の交互作用は有意ではなかった [$F(3, 503) = 0.91, p = 0.434$]。性別の主効果は有意でなく [$F(1, 503) = 0.15, p = 0.703$]、年齢層においては主効果がみられた [$F(3, 503) = 6.42, p < 0.001$]。年齢層において多重比較を行った結果、18～29歳の得点が40～49歳および50歳以上よりも有意に高かった。

DSM-IV 多動性-衝動性型症状

性別と年齢層の交互作用は有意ではなかった [$F(3, 498) = 0.80, p = 0.494$]。性別の主効果は有意であり [$F(1, 498) = 9.21, p < 0.01$]、男性の方が女性よりも得点が高かった。年齢層においては、主効果はみられなかった [$F(3, 498) = 2.20, p < 0.087$]。

DSM-IV 総合 ADHD 症状

性別と年齢層の交互作用は有意ではなかった [$F(3, 495) = 0.95, p = 0.415$]。性別の主効果は有意でなく [$F(1, 495) = 2.76, p = 0.097$]、年齢層においては主効果がみられた [$F(3, 495) = 5.18, p < 0.01$]。年齢層において多重比較を行った結果、18～29歳の得点が40～49歳および50歳以上よりも有意に高かった。

観察者評価式用紙

不注意／記憶の問題

性別と年齢層の交互作用が有意であった [$F(3, 498) = 3.87, p < 0.01$]。そのため、性別にお

ける年齢層の単純主効果および年齢層における性別の単純主効果の検定を行ったところ、40～49歳において性別の単純主効果が有意となり [$F(1, 498) = 10.02, p < 0.01$]、女性の方が男性よりも得点が高かった。性別の主効果は有意ではなく [$F(1, 498) = 2.41, p = 0.121$]、年齢層においても主効果はみられなかった。 [$F(3, 498) = 0.17, p = 0.914$]。

多動性／落ち着きのなさ

性別と年齢層の交互作用は有意ではなかった [$F(3, 495) = 0.15, p = 0.933$]。性別の主効果は有意でなかった [$F(1, 495) = 0.08, p = 0.777$]、年齢層においては主効果がみられた [$F(3, 495) = 3.38, p < 0.05$]。しかし多重比較による有意差は認められなかった。

衝動性／情緒不安定

性別と年齢層の交互作用は有意ではなかった [$F(3, 495) = 2.50, p = 0.059$]。性別の主効果は有意でなかった [$F(1, 495) = 3.50, p = 0.062$]、年齢層においては主効果がみられた [$F(3, 495) = 4.90, p < 0.01$]。年齢層において多重比較を行った結果、18～29歳の得点が40～49歳および50歳以上よりも有意に低かった。

自己概念の問題

性別と年齢層の交互作用は有意ではなかった [$F(3, 497) = 2.01, p = 0.112$]。性別の主効果は有意であり [$F(1, 497) = 8.09, p < 0.01$]、女性の方が男性よりも得点が高かった。年齢層においては主効果がみられなかった [$F(3, 497) = 2.35, p = 0.072$]。

ADHD 指標

性別と年齢層の交互作用は有意ではなかった [$F(3, 497) = 2.28, p = 0.079$]。性別の主効果は有意でなく [$F(1, 497) = 1.85, p = 0.175$]、年齢層においても主効果はみられなかった [$F(3, 497) = 0.53, p = 0.663$]。

DSM-IV 不注意型症状

性別と年齢層の交互作用が有意であった [$F(3, 498) = 3.00, p < 0.05$]。そのため、性別における年齢層の単純主効果および年齢層における性別の単純主効果の検定を行った。その結果、

30～39歳と40～49歳における年齢の単純主効果が有意となり（それぞれ $[F(1, 498) = 3.96, p < 0.05]$, $[F(1, 498) = 6.05, p < 0.05]$ ），いずれも女性の方が男性よりも得点が高かった。一方，女性において年齢層の単純主効果が有意となり $[F(1, 498) = 4.20, p < 0.01]$ ，18～29歳の方が40～49歳よりも得点が低かった。性別の主効果は有意であり（ $[F(1, 498) = 4.38, p < 0.05]$ ，女性の方が男性よりも得点が高かった。年齢層においては，主効果はみられなかった。 $[F(3, 498) = 1.31, p = 0.272]$ 。

DSM-IV 多動性-衝動性型症状

性別と年齢層の交互作用は有意ではなかった

$[F(3, 496) = 1.99, p = 0.115]$ 。性別の主効果は有意でなく $[F(1, 496) = 3.15, p = 0.077]$ ，年齢層においては，主効果がみられ $[F(3, 496) = 6.41, p < 0.001]$ ，18～29歳の得点が40～49歳および50歳以上よりも有意に低かった。

DSM-IV 総合 ADHD 症状

性別と年齢層の交互作用が有意であった $[F(3, 489) = 2.76, p < 0.05]$ 。そのため，性別における年齢層の単純主効果および年齢層における性別の単純主効果の検定を行った。その結果，40～49歳における年齢の単純主効果が有意となり $[F(1, 489) = 4.22, p < 0.05]$ ，女性の方が男性よりも得点が高かった。一方，女性において年齢層

Table 9 CAARS 観察者評価式用紙の性別×年齢層の分散分析結果

	性別×年齢層 $F(df=3)$	性別 $F(df=1)$	年齢層 $F(df=3)$
不注意／記憶の問題 ($df=498$)	3.87** 40～49歳において女性>男性 ($F=10.02^{**}$)	2.41	0.17
多動性／落ち着きのなさ ($df=495$)	0.15	0.08	3.38*
衝動性／情緒不安定 ($df=495$)	2.50	3.50	4.90** 18～29歳<40～49歳, 50歳以上
自己概念の問題 ($df=497$)	2.01	8.09** 女性>男性	2.35
ADHD 指標 ($df=497$)	2.28	1.85	0.53
DSM-IV 不注意型症状 ($df=498$)	3.00* ・30～39歳において女性>男性 ($F=3.96^*$) ・40～49歳において女性>男性 ($F=6.05^*$) ・女性において, 18～29歳<40～49歳 ($F=4.20^{**}$)	4.38* 女性>男性	1.31
DSM-IV 多動性-衝動性型症状($df=496$)	1.99	3.15	6.41*** 18～29歳<40～49歳, 50歳以上
DSM-IV 総合 ADHD 症状 ($df=489$)	2.76* ・40～49歳において女性>男性 ($F=4.22^*$) ・女性において, 18～29歳<30～39歳, 40～49歳, 50歳以上 ($F=6.80^{***}$)	4.60* 女性>男性	3.64* 18～29歳<40～49歳, 50歳以上

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

の単純主効果が有意となり [$F(1, 489) = 6.80$, $p < 0.001$], 18~29歳が, 30~39歳, 40~49歳および50歳以上よりも得点が低かった。性別の主効果は有意であり ([$F(1, 489) = 4.60$, $p < 0.05$], 女性の方が男性よりも得点が高かった。年齢層においても主効果がみられ [$F(3, 489) = 3.64$, $p < 0.05$], 18~29歳が, 40~49歳および50歳以上よりも得点が低かった。

年齢と性別の影響のまとめ

CAARS 日本語版の自己記入式用紙と観察者評価式用紙の各下位尺度における年齢と性別の影響について検討した。

性別については、自己記入式用紙と観察者評価式用紙の両方とも、多動性や衝動性において男性の方が女性よりも得点が高く、不注意や自己概念の問題において女性の方が男性よりも得点が高い傾向がみられた。

年齢層については、自己記入式用紙においては18歳~29歳の得点が他の年齢層の得点よりも高く、年齢が高くなるにつれて得点が低くなる傾向がみられたのに対して、観察者評価式用紙においては、一部の下位尺度（衝動性／情緒不安定、DSM-IV 多動性-衝動性、DSM-IV 総合 ADHD 症状）で、18歳~29歳の得点が他の年齢層の得点よりも低く、年齢が高くなるにつれて得点が高くなる傾向がみられた。すなわち、全般的に、本人

からは年齢を重ねるにつれて ADHD の症状は弱くなっていくと認知される傾向があるのに対して、観察者の視点からは年齢を重ねるにつれて症状が強くなっていく傾向があると認知されることを示唆している。観察者評価式用紙にみられた、年齢が高くなるにつれて症状が強くなる傾向は、原版の標準化サンプルにおいてはみられなかったものである。この点については、地域的な文化差の可能性なども視野に入れた詳細な検討が必要である。

全体のまとめ

CAARS 日本語版の自己記入式用紙と観察者評価式用紙の、標準化サンプルの概要と尺度の信頼性および年齢層と性別による得点の傾向について示した。全体的には原版と同様に満足できる信頼性を備えた尺度であることが明らかになった。また、年齢層と性別による得点の差異についても明らかになった。しかしながら、冒頭でも述べたように、今回報告した標準化データは部分的にサンプル数が少ないため、今後十分な数を確保したデータによる標準化データを示す予定である。また、尺度の妥当性については今回報告することができなかったため、これについても今後検討する必要がある。

索引

あ行

- 因子的妥当性 67
- インフォームド・コンセント 6
- 遠隔検査 6
 - 遠隔検査で得られた結果 6

か行

- 解釈と利用 16
- 下位尺度の得点の解釈 17
- 回答者に読字困難がある場合 8
- 回答に自信がない項目 8
- 回答を変更 8
- 確認的因子分析 67
- 観察者 6
 - 観察者の年齢や性別 7
- 観察者評価式 2
 - 観察者評価式尺度 48
 - 観察者評価式用紙 55
 - 観察者評価式用紙の標準化サンプル 50
- 記入漏れ項目 9
- クイックスコア用紙 9
- クロンバックの α 係数 56
- ケーススタディ 20
 - ケース 1 : Mさん 20
 - Mさんの自己記入式用紙 23
 - Mさんの観察者評価式用紙 24
 - ケース 2 : Dさん 25
 - Dさんの自己記入式用紙 26
 - Dさんの観察者評価式用紙 27
 - ケース 3 : Pさん 28
 - Pさんの自己記入式用紙 30
 - ケース 4 : Sさん 31
 - Sさんの初回の自己記入式用紙 33
 - Sさんの初回の観察者評価式用紙 34
 - Sさんのフォローアップ時の自己記入式用紙 35
 - ケース 5 : Wさん 32
 - Wさんの自己記入式用紙 37
 - ケース 6 : Gさん 38
 - Gさんの初回の自己記入式用紙 40
 - Gさんのフォローアップ時の自己記入式用紙 41
- 構成概念妥当性 67, 72
- 項目間相関係数の平均 58

- コナーズ成人 ADHD 評価スケール (CAARS) 1
 - CAARS 尺度の相互相関 69
 - CAARS 得点のプロフィール作成 10
 - CAARS の主な特徴 1
 - CAARS の構成要素 3
 - CAARS の実施とスコアリング 6
 - CAARS のスコアリング 8
 - CAARS の解釈 16
 - CAARS 解釈の実践ガイド 18
 - CAARS の下位尺度の説明 19
 - CAARS の開発 43
 - (CAARS の) 記入例 10
 - CAARS 自己記入式用紙回答表の記入例 12
 - CAARS 自己記入式用紙スコアリング表の記入例 14
 - CAARS 自己記入式用紙プロフィール用紙の記入例 15
 - CAARS の妥当性 67
 - CAARS の標準化サンプルと心理測定法的特性 50
 - CAARS の矛盾指標 46
 - CAARS 自己記入式用紙の矛盾指標に用いられる項目 47
 - CAARS 観察者評価式用紙の矛盾指標に用いられる項目 48
 - CAARS の利用 4
- コナーズの評価スケール改訂版 (CRS-R) 1
 - CRS-R と CAARS に共通する基本的な特徴 1, 2
- このマニュアルの内容 4

さ行

- 再テスト法による信頼性 61, 85
 - 再テスト法による信頼性係数 85
- 詐病の可能性 16
- 自己記入式 2
 - 自己記入式用紙 54
 - 自己記入式用紙の標準化サンプル 50
- 実施手順 7
- 自分の回答にどんな意味があるのかを熱心に知りたがる回答者 8
- 社会的望ましさ 16
- 尺度の妥当性 16
- 収束的妥当性 67
- 女性用 (プロフィール用紙) 10
- 所要時間 7
- 信頼性 56, 80

内的—	56
内的整合性による—	85
スクリーニング版	3
スコアリングとプロフィール作成の例	10
スコアリング表	9
成人 ADHD の評価と CAARS の開発	43
精神疾患の診断・統計マニュアル第4版 (DSM-IV)	1
DSM-IV 症状尺度	47
測定の標準誤差 (SEM)	62
粗点	10

た行

多相的なアセスメント	1
妥当性	67
因子的—	67
構成概念—	67, 72
収束的—	67
弁別的—	67, 70
CAARS の—	67
短縮版	3
男性用 (プロフィール用紙)	10
注意欠如・多動性障害 (ADHD)	1
ADHD 指標	45
通常版	3, 4
通常版用紙 (自己記入式, 観察者評価式) の下位尺度	4
(標準) <i>T</i> 得点	10, 17
<i>T</i> 得点とパーセンタイル値の解釈のガイドライン	18
<i>T</i> 得点の最大値を超える場合	11
<i>T</i> 得点が80を超える場合	16
でたらしめな回答の可能性	16
電話を介して各質問項目を読み上げる	6
得点を歪める可能性のある要因	16

な行

内的信頼性	56
内的整合性による信頼性	85
年齢カテゴリー	10
年齢と性別の影響	54, 85

は行

パーセンタイル値	17, 18
必要な用具	7
標準化データ	50, 80
プロフィール特徴の解釈	18
プロフィール用紙	10
男性用 (プロフィール用紙)	10
女性用 (プロフィール用紙)	10
米国精神医学会 (APA)	1
弁別的妥当性	67, 70

ま・や・ら行

矛盾指標	46
矛盾指標のカットオフ値	46
予測の標準誤差 (SEP)	62
リッカート形式	2
利用者の資格要件	4
利用の原則	4

英字

ADHD	1
DSM-IV	1
APA	1
CRS-R	1
CAARS	1
SEM	62
SEP	62

CAARS™ 日本語版 マニュアル

2012年6月26日 初版第1刷発行

[検印省略]

定価 本体 12,000 円 + 税

著者 C.Keith Connors, Ph.D., Drew Erhardt, Ph.D., & Elizabeth Sparrow, Ph.D.

監修者 中村 和彦

監訳者 染木 史緒, 大西 将史

発行者 金子 紀子

発行所 株式会社 金子書房

〒112-0012 東京都文京区大塚 3 - 3 - 7

TEL 03(3941)0111(代) FAX 03(3941)0163

振替 00180-9-103376

<http://www.kanekoshobo.co.jp>

印刷 藤原印刷株式会社 製本 株式会社宮製本所

©2012, Kanekoshobo Printed in Japan

C. Keith Conners, Ph.D., Drew Erhardt, Ph.D., & Elizabeth Sparrow, Ph.D. 原著 / 中村和彦 監修 染木史緒・大西将史 監訳

来談者ID _____	性別	男	女	(どちらかに○)	生年月日	西暦	年	月	日
年齢 _____ 歳	記入年月日	西暦	年	月	日				

記入のしかた： 以下の各項目は、成人がときどき経験する行動や問題を表しています。それぞれの項目をよく読み、最近のあなたにどれくらい当てはまるか、またはどれくらいの頻度で起こるかを考えてください。各項目について次の4つのうちから回答を選び、該当する数字を○で囲んでください。

0=まったく当てはまらない/まったくない、1=ほんの少し当てはまる/ときどきある、2=ほとんど当てはまる/しばしばある、3=非常に当てはまる/とても頻繁にある

私は……	まったく当てはまらない/まったくない	ほんの少し当てはまる/ときどきある	ほとんど当てはまる/しばしばある	非常に当てはまる/とても頻繁にある
1. 活動的なことをするのが好きだ。	0	1	2	3
2. (やることのリスト、鉛筆、本、道具など) 課題や活動に必要なものをなくす。	0	1	2	3
3. 前もって計画を立てない。	0	1	2	3
4. うっかり口をすべらせてしまう。	0	1	2	3
5. 進んで危険をおかす、または向こう見ずだ。	0	1	2	3
6. 自分を非難する。	0	1	2	3
7. やり始めたものごとを最後までやり終えない。	0	1	2	3
8. 怒りっぽい。	0	1	2	3
9. しゃべりすぎる。	0	1	2	3
10. いつも、まるで「エンジンで動かされるように」行動する。	0	1	2	3
11. 整理整頓ができない。	0	1	2	3
12. 考えずにものを言う。	0	1	2	3
13. 1つの場所に長時間いることが難しい。	0	1	2	3
14. 余暇活動を静かに楽しむことが難しい。	0	1	2	3
15. 自分に自信がない。	0	1	2	3
16. いくつものことを同時に把握したり、進行したりできない。	0	1	2	3
17. じっとしているべきときでも、常に動いている。	0	1	2	3
18. ものごとを覚えておくことを忘れてしまう。	0	1	2	3
19. 気が短い/すぐにカッとなる。	0	1	2	3
20. あきっぽい。	0	1	2	3
21. 席を離れてはいけないうきに離れる。	0	1	2	3
22. 列に並んで待ったり、他の人と交代で何かをしたりするのが苦手だ。	0	1	2	3
23. 今でもかんしゃくを起こす。	0	1	2	3
24. 工作中、何かに集中しているのが苦手だ。	0	1	2	3
25. ペースの速い、刺激的な活動を求める。	0	1	2	3
26. 自分の能力に自信がないので、新しいことに挑戦するのを避ける。	0	1	2	3
27. じっと座っているときでも、内心は落ち着かない。	0	1	2	3
28. 集中しようとしているときに、何かが目に入ったり聞こえたりすると気がそれてしまう。	0	1	2	3
29. 毎日の活動を忘れてしまう。	0	1	2	3
30. ささいなことですぐ腹を立てる。	0	1	2	3
31. 静かで内省的な活動は嫌いだ。	0	1	2	3
32. 必要なものをなくす。	0	1	2	3
33. 人の話を聞くのが苦手だ。	0	1	2	3

≫裏面へ続く

	まったく当てはまらない／まったくない	ほんの少し当てはまる／ときどきある	ほとんど当てはまる／しばしばある	非常に当てはまる／とても頻りにある
34. 本来の能力を十分発揮できない。	0	1	2	3
35. 他人の話をさえぎる。	0	1	2	3
36. 計画や仕事を途中で変える。	0	1	2	3
37. いっけん問題なく振る舞うが、内心では自信がない。	0	1	2	3
38. いつもあちこち動き回っている。	0	1	2	3
39. 後で取り消したくなるようなことを言ってしまう。	0	1	2	3
40. はっきりした期限がないと、ものごとを最後まで終えられない。	0	1	2	3
41. 手足をそわそわと動かす、またはいすの上でもじもじする。	0	1	2	3
42. (学業や仕事において)不注意な過ちをおかす、または細部を見落とす。	0	1	2	3
43. 意図せずに、他人が傷つくようなことを言う。	0	1	2	3
44. 作業を始めるのが難しい。	0	1	2	3
45. 他人のじゃまをする。	0	1	2	3
46. じっと座っているために大変な努力が必要だ。	0	1	2	3
47. 気分が変わりやすい。	0	1	2	3
48. いろいろと考えて行わないといけないう勉強や仕事の課題が嫌いだ。	0	1	2	3
49. 日々の活動中にボーっとしていることがある。	0	1	2	3
50. 落ち着きがない、またはエネルギーがありすぎる。	0	1	2	3
51. 生活の秩序を整えたり、細かいことを処理したりするのに他人を頼る。	0	1	2	3
52. 悪気はないが、他人を困らせる。	0	1	2	3
53. 細かいことに集中しすぎるときもあるいっぽうで、周りにあるすべてのことに気が散ってしまうときもある。	0	1	2	3
54. もじもじしたり、そわそわする傾向がある。	0	1	2	3
55. 本当に興味のあることでないと、集中して続けられない。	0	1	2	3
56. 自分の能力にもっと自信をもてればいいのと思う。	0	1	2	3
57. 長時間じっと座ってられない。	0	1	2	3
58. 質問が終わる前に出し抜けに答えてしまう。	0	1	2	3
59. 1つの場所にいるよりは、常にあちこち動き回っているのが好きだ。	0	1	2	3
60. 仕事や学業の課題をやり遂げることが難しい。	0	1	2	3
61. いらいらしやすい。	0	1	2	3
62. 仕事や遊んでいる最中の人のじゃまをする。	0	1	2	3
63. 過去の失敗のせいで、自分に自信がもてない。	0	1	2	3
64. 外からの刺激によって容易に注意をそらされる。	0	1	2	3
65. 課題や活動を順序立てることが困難である。	0	1	2	3
66. 何かをしたり、どこかに行ったりするのにかかる時間を読み違える。	0	1	2	3

C. Keith Conners, Ph.D., Drew Erhardt, Ph.D., & Elizabeth Sparrow, Ph.D. 原著／中村和彦 監修 染木史緒・大西将史 監訳

評価対象者				観察者			
氏名 _____				氏名 _____			
性別	男	女	(どちらかに○)	年齢	_____	歳	
性別	男	女	(どちらかに○) *任意	年齢	_____	歳	*任意
記入年月日	西暦	_____	年	_____	月	_____	日
評価対象者との関係				<input type="checkbox"/> 配偶者	<input type="checkbox"/> 保護者	<input type="checkbox"/> きょうだい	<input type="checkbox"/> その他 _____

記入のしかた： 以下の各項目は、成人がときどき経験する行動や問題を表しています。それぞれの項目をよく読み、最近の評価対象者にどれくらい当てはまるか、またはどれくらいの頻度で起こるかを考えてください。各項目について次の4つのうちから回答を選び、該当する数字を○で囲んでください。
 0=まったく当てはまらない/まったくない、1=ほんの少し当てはまる/ときどきある、2=ほとんど当てはまる/しばしばある、3=非常に当てはまる/とても頻繁にある

評価対象者は……	まったく当てはまらない/まったくない	ほんの少し当てはまる/ときどきある	ほとんど当てはまる/しばしばある	非常に当てはまる/とても頻繁にある
1. 活動的なことをするのが好きだ。	0	1	2	3
2. (やることのリスト、鉛筆、本、道具など) 課題や活動に必要なものをなくす。	0	1	2	3
3. 前もって計画を立てない。	0	1	2	3
4. うっかり口をすべらせてしまう。	0	1	2	3
5. 進んで危険をおかす、または向こう見ずだ。	0	1	2	3
6. 自分を非難する。	0	1	2	3
7. ものごとを最後までやり終えない。	0	1	2	3
8. 怒りっぽい。	0	1	2	3
9. しゃべりすぎる。	0	1	2	3
10. いつも、まるで「エンジンで動かされるように」行動する。	0	1	2	3
11. 整理整頓ができない。	0	1	2	3
12. 考えずにものを言う。	0	1	2	3
13. 1つの場所に長時間いることが難しい。	0	1	2	3
14. 余暇活動でついのはめをはずして騒いだり、乱暴になったりする。	0	1	2	3
15. 自分に自信がない。	0	1	2	3
16. いくつものことを同時に把握したり、進行したりできない。	0	1	2	3
17. じっとしていようとしても、常に動いている。	0	1	2	3
18. ものごとを覚えておくことを忘れてしまう。	0	1	2	3
19. 気が短い/すぐにカッとなる。	0	1	2	3
20. あきっぽい。	0	1	2	3
21. 席を離れてはいけないうきに離れる。	0	1	2	3
22. 列に並んで待ったり、他の人と交代で何かをしったりするのが苦手だ。	0	1	2	3
23. かんしゃくを起こす。	0	1	2	3
24. 工作中、あるいは遊びの最中に何かに集中しているのが苦手だ。	0	1	2	3
25. ペースの速い、刺激的な活動を求める。	0	1	2	3
26. 自分の能力に自信がないので、新しいことに挑戦するのを避ける。	0	1	2	3
27. じっと座っているときでも、内心は落ち着かないようだ。	0	1	2	3
28. 集中しようとしているときに、何かが目に入ったり聞こえたりすると気がそれてしまう。	0	1	2	3
29. 毎日の活動を忘れてしまう。	0	1	2	3
30. ささいなことですぐ腹を立てる。	0	1	2	3
31. 静かで内省的な活動は嫌いだ。	0	1	2	3
32. 仕事や作業に必要なものをなくす。	0	1	2	3
33. 人の話を聞くのが苦手だ。	0	1	2	3

≫裏面へ続く

	まったく当てはまらない、まったくない	ほんの少し当てはまる、ときどきある	ほとんど当てはまる、しばしばある	非常に当てはまる、とても頻りにある
34. 本来の能力を十分発揮できない。	0	1	2	3
35. 他人の話をさえぎる。	0	1	2	3
36. 計画や仕事を途中で変える。	0	1	2	3
37. いっけん問題なく振る舞うが、内心では自信がないようだ。	0	1	2	3
38. いつもあちこち動き回っている。	0	1	2	3
39. 後悔するようなことを言ってしまう。	0	1	2	3
40. はっきりした期限がないと、ものごとを最後まで終えられない。	0	1	2	3
41. 手足をそわそわと動かす、またはいすの上でもじもじする。	0	1	2	3
42. (学業や仕事において) 不注意な過ちをおかす、または細部を見落とす。	0	1	2	3
43. 意図せずに、他人が傷つくようなことを言う。	0	1	2	3
44. 作業を始めるのが難しい。	0	1	2	3
45. 他人のじゃまをする。	0	1	2	3
46. じっと座っているために相当な努力を要するようだ。	0	1	2	3
47. 気分が変わりやすい。	0	1	2	3
48. いろいろと考えて行わないといけないう勉強や仕事の課題が嫌いだ。	0	1	2	3
49. 日々の活動中にボーっとしていることがある。	0	1	2	3
50. 落ち着きがない、またはエネルギーがありすぎる。	0	1	2	3
51. 生活の秩序を整えたり、細かいことを処理したりするのに他人を頼る。	0	1	2	3
52. 悪気はないが、他人を困らせる。	0	1	2	3
53. 細かいことに集中しすぎるときもあるいっぽうで、周りにあるすべてのことに気が散ってしまふときもある。	0	1	2	3
54. もじもじしたり、そわそわする傾向がある。	0	1	2	3
55. 本当に興味のあることでないと、集中して続けられない。	0	1	2	3
56. 自分の能力に自信がないような態度をとる。	0	1	2	3
57. 長時間じっと座ってられない。	0	1	2	3
58. 質問が終わる前に出し抜けて答えてしまう。	0	1	2	3
59. 1つの場所にいるよりは、常にあちこち動き回っているのが好きだ。	0	1	2	3
60. 仕事や学業の課題をやり遂げることが難しい。	0	1	2	3
61. いらいらしやすい。	0	1	2	3
62. 仕事や忙しそうにしている人のじゃまをする。	0	1	2	3
63. 過去の失敗のせいで、自分に自信がもてないような態度をとる。	0	1	2	3
64. 外からの刺激によって容易に注意をそらされる。	0	1	2	3
65. 課題や活動を順序立てることが困難である。	0	1	2	3
66. 何かをしたり、どこかに行ったりするのにかかる時間を読み違える。	0	1	2	3

